

## 「第 30 回発表会など」

10 月 13 日(水)西由紀子さんの三回忌でいらっしゃいました。改めましてご冥福をお祈り申し上げます。

発表会から 2 か月が過ぎようとしています。このような緊迫した状況の中で、第 30 回目の発表会を開催させて頂きまして誠にありがとうございました。そして大変お疲れさまでした。

本番中に残念ながら捻挫をしてしまった生徒さんがいましたが、まずは感染者を出すことなく無事に幕を下ろすことが出来たのは、保護者の皆様をはじめとする方々のご尽力のおかげと心より感謝申し上げます。

今日まで、発表会の感想などをたくさん頂きましてありがとうございました。お返事が出来ておりませんので、この場をお返事とさせていただきます。

そして保護者の皆様からは温かいお心遣いを頂きまして誠にありがとうございました。たくさん助けて頂きました上にこのようにして頂きまして大変恐縮でございます。

このご時世でどの現場でも困惑や困難があり、世の中の誰もが緊張の毎日を過ごす中、小さなお子さんから人生のベテランさんの生徒さんまでが一斉に舞台に立つという。これまで当たり前だと思っていた事がこんなにも大変なことになるとは...。しかしいつにも増してのお母さま方のサポートにどれほど救われた事でしょう。実務として助けて頂いたことはもちろんの事。それにも増して今回ほど心を支えて頂いたことはこれまでにあったでしょうか。

このコロナ禍は悲しみや辛さ、困難さなど人々の心に影が差す様な状況であることに違いありませんが、そのような中であっても心強く明るく前向きに進んで行くことが出来るのだという事がこの度の発表会で感じた事でした。

今回の参加生徒さん。平均年齢がグンと低くなりこれまで「世代交代」というお声もよく耳にしました。しかし私からすればどのような生徒さんであっても舞台は舞台。取り組む姿勢と意欲は自分の年齢と比例して年々向上していると自負しています。

つい先日、お世話になりました舞台監督の森脇由美子さんとお会いしました。発表会を振り返り…。以下↓森脇さんのお話となります。

『コロナ禍での舞台現場はどこも感染予防対策、予算削減、過密スケジュールで、スタッフさん方はいつにも増して疲弊していた夏だった。そんな中で有梨ちゃんの現場にスタッフ全員が救われたよ…。おいしいお弁当、温かいお味噌汁やコーヒー、そしてお母さま方の何と感のいい事か…。どの現場でもピリッリしていたスタッフたちが有梨ちゃんの現場では本当にみんなにこにこしていて機嫌が良かった。本当にありがとうね。あなたのお教室は本当に他には無い特別なバレエ教室。どんなに小さな生徒でも、お稽古場に入って来る時、舞台袖に入って来る時に「日常を持ち込まない姿勢」がしっかり見える。その空気はスタッフたちにもしっかりと伝わって来てそれが何よりも気持ちがいい。あなたの「こうしたい」という一貫した姿勢がちゃんと子供たちにも伝わっているのが良くわかる。ただ言われたからそうしているのではなく、「有梨先生が嫌がることは絶対にしない」という子供たちの強い意志が伝わってくる。そうした光景を他の現場で見ることは決してない。特殊なバレエ教室だよ』 こんなお話を頂きました。

森脇さんとは 20 年近くのお付き合いをさせて頂いていますバレリーナを目指して猛稽古されてきた方ですが、途中からバレエ舞台監督へと転身されました。知識はもちろん素晴らしいのですが、やはりバレエに対する想いが本当に深い方です。語り合っても語り合っても尽きることはなく、ますます話が深化します。

↑で頂いた森脇さんのお話についてですが、恩師である小林紀子先生から直々にご指導いただくにあ

たり、最初にお話しくださった事があります。私が中学 1 年生の時の事。

「皆さん、よいですか。バレエを踊るという事は、八百屋さんにおつかいに行ってお大根やニンジンを買ったりする事とは違う事なのですよ」というものでした。保護者参観日だったその日に母はそのお話に大感動。この先生につけたのは本当に良かったとずっと電車の中で話していたのを強く覚えています。

そうか…上手か下手かではないのか…では一体どうしたら…という大テーマを胸に今の私があります。そして森脇さんにそれを言い当てられ、間違っていないのかな…と 1 個〇を頂けたような気持ちです。

舞台は舞台。芸術は芸術。子供も大人もなくテーマは人間。発表会ではありますが、本質から反れない。ブレないようにという強い思いにかき立てられて毎回舞台の幕が上がります。

生徒さん、保護者の皆様に共感して頂いていると思い込んでおります。

### 「小品集」

どのクラス、どの作品の生徒さんも、お稽古場では必死すぎるお顔で取り組んでいたもので、まったく想像もしないまま袖で観ていると、まっ誰に教わったのかあの表情。誰一人として作り笑顔ではない心からの表情でした。「口角を上げて!!」「目が笑っていない!!」「笑っていても歯は見せちゃダメ!!」などによく他の先生がおっしゃっているのを耳にしますが…必要ないですね(笑)。

### 「くるみ割り人形」

厳しいお稽古の跡がきちんと出ていた踊りでしたが、他に皆さんのお衣裳の着こなしも素晴らしかったです。それぞれがこの場面での自分の役割を自覚している踊りになっていました。

主演の西結香子さんは 5 月末に足の手術をし、厳しいリハビリを経ての舞台でした。天国の由紀子さんにも絶対に観て頂きたい、でも身体が第一、万が一舞台に立てなくてもそこは腹をくくって。そんな葛藤の中、お父様の強いお支えがあって本当に素晴らしい舞台になりました。周りのお友達にも本当に支えて頂きました。由紀子さんもきっときっと…。

### 「ゴットシャルク集」

スタッフさんうけがとてもよく、特に照明デザイナーの佐藤先生には「毎年熊谷先生の作品でやりたい様にできるのが楽しくてうれしい」と言って頂きます。この部では、幕の白もの(白鳥の湖の二幕、ジゼル)の 2 幕、バヤデールの影の王国などに合同で取り組んで、コール・ド・バレエ(郡部)の勉強に充てるなどしていましたが、ここ数年はこのような賑やかで楽しいものにする傾向にあります。

↑にありましたお話のように、ただはっちゃけるのではなく、バレエである以上、そこには品が伴わなければバレエとして成り立ちません。やはりお稽古場では、あんなに楽しくワクワクした音楽でも、みんなゆがんだ顔でお稽古をしてきました。かわいいお衣裳が届いて少しは解けましたが、それでもまだまだ…劇場リハーサルでも必死顔。「う～んやっぱり振付がちょっと過酷だったかな」とちょっと思いましたが、本番ではどうでしょう!! 「わーみんなに騙されたー」とひとり袖で驚いていました。

感動をすると人はグンと成長します。

心の成長は人間にとって終日を迎えるまで欠かせないものだと思います。

そして感動は決して未知なるものからやって来るのではなく、もともとそれぞれ自分が持っているもの、気が付かなかつたり、眠っていたりするものが、感動という刺激によって呼び起こされ、そこでグイッと前進できるものだと思います。

芸術は誰の身の上にも平等にもたらされるものであり、感動は心の成長の為にエンジン。

自ら貪欲に追い求め分け入っていききたいものですね。

ありがとうございました。